様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年　６月１６日現在

機関番号：12611
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2008　～　2010
課題番号：20520203
研究課題名（和文）　近世初頭までの禁裏・公家文庫における説話集・霊験譚集・縁起享受の実態調査・研究
研究課題名（英文）　The Narratives and Origin Legends Stored in Imperial Library Collection Before the Mid-17th Century

研究代表者　　内田　澪子（UCHIDA MIOKO）
お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学研究科・研究院研究員
研究者番号：50442497

研究成果の概要（和文）：本研究では近世初頭前後の説話･縁起関係資料の禁裏伝来状況を調査し、以下等の結論を得た。
・ 近世初頭の禁裏には畿内を中心とした社寺の、ある程度数の縁起が伝来した。但しその頃に伝えられていたものと現在に伝わるものとは、種類が異なる。万治四年(1661)焼亡後の文庫再建方針に起因すると思われた。
・ 説話類も当該期には『古事談』『撰集抄』など、若干数が伝えられていたことが確認できる。但し 1ー2 の例外を除いて現在には伝わらない。
・ 当該期に禁裏伝来が確認できる『十一面観音縁起』『古事談』『十訓抄』等の個別作品研究を進めた。

研究成果の概要（英文）：This study examined the possession of narratives (*setsuwa*) and origin legends (*engi*) of Imperial Library Collection around the mid-17th century. The conclusions are follows:
1)There were several origin legends of temples and shrines in *Kinai* area before the mid-17th century. But the kinds of books at that time were different from today's one because of the difference of policy of re-collection after the fire in 1661 which burnt the previous collection.
2)Narratives such as "*Kojidan*" and "*Senjusho*" had been also stored in the collection before the fire which are not transmitted now with a few exceptions.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2009 年度	700,000	210,000	910,000
2010 年度	700,000	210,000	910,000
総　計	2,700,000	810,000	3,510,000

研究分野：日本中世文学
科研費の分科・細目：文学・日本文学
キーワード：日本中世文学・説話・縁起・霊験譚・文庫

１．研究開始当初の背景

禁裏文庫に関しては、伝存する様々な目録や多くの記録などから抽出される情報を博捜して総合し、特に万治四年の禁裏文庫焼亡を境とした、その前後、それぞれの禁裏文庫の復原、あるいは連続の様の解明の為に、精力的且つ精緻な調査・検討が行われている（田島公「近世禁裏文庫の変遷と蔵書目録−東山御文庫本の史料学的・目録学的研究のために−」『禁裏・公家文庫研究』第一輯。他）。

禁裏や周辺文庫を形成する典籍は多彩であり、その全容解明も鶴首されるが、古記録や儀式次第書、また歌書等とも異なり、寺社縁起や説話集は中心的構成員ではない。その意味でのマイノリティ的作品がどのような形で存在するのかを解明するために、調査範囲を限って目録及び現伝存状況等を調査することで、まず巨視的な見通しを持つことが有効と考えられた。

２．研究の目的

(1)　説話集や寺社の霊験譚集・縁起等が禁裏周辺にどのように伝来しているのか・いたのか、その状態と実態を調査・検討すること。

(2)　中世に多く生まれた説話集・霊験譚集・縁起等の作品が成立以降、どのような享受を経るのかを通時的に検討すること。

３．研究の方法

(1)　「東山御文庫本マイクロフィルム内容目録（稿）(1)・(2)・索引」（小倉慈司、『禁裏・公家文庫研究』第一・二・三輯、思文閣出版、2003・2006・2009 年）によれば、東山御文庫本の中に「ー目録」と見えるものが 90 点余り認められる。この内一点でも縁起関係資料の記載のある東山御文庫本の目録 14 点、大東急記念文庫蔵『禁裡御蔵書目録』（同善本叢刊第 11 巻所収）、西尾市岩瀬文庫蔵『官本目録』（科学研究費補助金課題番号 14201032 報告書『禁裏・宮家・公家文庫収蔵古典籍のデジタル化による目録学的研究』2006 年に田島公氏により翻刻）、宮内庁書陵部蔵旧有栖川宮家『明治七年甲戌年六月改 御書籍目録』、同『西面御文庫宸翰古筆並和漢書籍総目録』（『禁裏本と古典学』塙書房 2009 年に小川剛生氏により翻刻）、国立歴史民族博物館蔵高松宮家伝来禁裏本『記録目録』（前掲『禁裏本と古典学』に小倉真紀子氏により翻刻）等の目録と、東山御文庫本・高松宮家伝来禁裏本・伏見宮家本等を中心にして、縁起・説話関係資料を抽出し、その情報を分析する。

(2)　各個別資料に関する本文調査・分析、および伝来に関わる情報等の分析・検討。

４．研究成果

(1)　目録上に記載のあるものと現存の確認出来るものとを総合すると、縁起関係資料として 140 点程が抽出出来た。但し同じ書名で冊数のみ異なるものや、書名が僅かに異なっているものの同一かと考えられるもの等が未だ含まれるため、縁起の種類はこれより減ずる。

同様に説話関連資料を数えると『今物語』『宇治大納言物語』『唐鏡』『唐物語』『閑居友』『江談抄』『古今著聞集』『古事談』『今昔物語』『斎王記』『三国伝記』『三宝絵詞』『十訓抄』『沙石集』『撰集抄』『続古事談』『東斎随筆』『寝覚記』『秘記』『富家語』『宝物集』『発心集』『吉野拾遺』『老少談』の 24 点を見ることができた。但しこちらは、『斎王記』（東山御文庫勅封番号 162-7、『古代中世の史料と文学』吉川弘文館 2005 年に小倉慈司により翻刻）を除き禁裏周辺に現存は確認できず、全て目録上にのみ見えるものである。

東山御文庫本に現存の典籍については、学術創成研究費研究（課題番号 19GS0102）との連携により熟覧調査を許可された若干数を除き、前掲マイクロフィルム撮影済みの内容目録データに限ったものである。今後撮影が進めば、更に現存関係資料が見出される可能性は高い。

(2)　抽出できた縁起類を概観すると、禁裏と特定社寺との深い関わりを感じさせるような傾向は見られない。基本的には、洛中や畿内の寺社に関わるものが過半を占めており、これに外れるものは「土佐国朝倉宮」「石動山」「筥崎宮」「日御碕」「玉津嶋社」「日光山」「粉河寺」「熊野」「桑実寺」「善光寺」「美濃因幡社」「羽賀寺」「伊勢太神宮」である。

説話類では、最も多く目録に書名が見えたのは、『古事談』と『続古事談』で共に 11 箇

所。次に『今物語』8、『撰集抄』7、『宝物集』『老少談』『江談抄』6、『三国伝記』『十訓抄』『東斎随筆』5 箇所等である。説話類は、実際の収蔵の場の状況も反映しているかとも推せるが、目録上、巨視的には近接した箇所にまとめて記される。但し、一方で記載箇所のばらつきは看過出来ず、各作品享受の在り方に繋がる課題として、検討の余地を残した。

(3)　取り上げた目録の中で、現在東山御文庫に伝えられる縁起関係資料の名を最も多く掲載するのは、東山御文庫勅封番号 174-2-15『禁裡御蔵書目録』(国文学研究資料館調査報告書第 17 号に山崎誠氏により翻刻) である。同目録に縁起関係資料を 28 点数えると、このうち 12 点は東山御文庫本の中に、3 点は高松宮伝来禁裏本の中に同名書が認められる。また高松宮家伝来禁裏本に関しては、旧有栖川宮家本『西面御文庫宸翰古筆並和漢書籍総目録』記載 41 点の内、34 点が現存書名と重る。

(4)　逆に目録に名は見えるものの、現時点では実際の典籍を確認出来ない縁起関係資料名は全体の約 1/3 程である。これを最も多く載せるのは東山勅封 59-1-4『古官庫歌書目録』である。同目録に記される縁起関係資料のうち、現存に見いだせるのは、東山御文庫に 1 点と、高松宮家伝来禁裏本に 2 点のみである。加えて大東急文庫本『禁裡御蔵書目録』、岩瀬文庫本『官本目録』記載の縁起関係資料はひとつも見いだせない。

3 本の目録の縁起関係資料の記載状況を見ると、『古官庫歌書目録』の記載がもっとも多く 28 点。他の 2 本に記載のものは両者まったく同じ(両者が非常に似通った目録であるという先学の指摘に合致。前掲田島論文参照)で 15 点。更にこの 2 目録に記載された書名は、全て『古官庫歌書目録』の記載に含まれる。またこの 3 本に掲載された縁起関係資料の名は、他の目録にはほぼ掲載されない、という特徴も見えた。

説話関係資料の場合は、この 3 本の目録に記載される作品と数はほぼ同一で、縁起類の様に『古官庫歌書目録』だけが抜きん出ることがない。また 3 本の目録に記載された説話類の書名は、他の目録にも多く掲載されているなど、縁起類との掲載傾向の違いが顕著である。

(5)　(4)の『古官庫歌書目録』他 2 目録に記載の縁起類・説話類は、「石動山縁起」と『古事談』『江談抄』を除き、(3)の『禁裡御蔵書目録』に掲載されない。一方『禁裡御蔵書目録』に掲載の 22 点の縁起類は先の例外 3 点を除き、(4)の 3 目録に掲載されない。(4)の 3 目録は万治四年以前の文庫の姿を伝えるとされ(前掲田島論文参照)、(3)はそれ以後の姿を反映するものとされる。縁起類・説話類に関わる両者の記載の違いは、万治四年の焼亡に依拠するとせざるを得ない。

(6)　高松宮家本『十一面観音縁起』は、所謂『長谷寺密奏記』の一伝本であるにも関わらず、他伝本とは異なり、本文中にこれが長谷寺の縁起を示す文言が現れない。文章博士でもあった菅原氏高辻豊長が関わり、長谷寺の縁起であることよりも、菅原道真真筆の一書という点に意義を見出されていたと思しい。これが後西天皇の周辺に渡り、高松宮家に伝来したものである可能性を示した。

(7)　焼亡以前の禁裏にも伝えられていた痕跡のある『十訓抄』について検討を行った。『十訓抄』は編者未詳で、既に先学によって複数の編者候補が立てられているが、今回片仮名本の奥書から、六波羅探題北条重時被官として活躍したという人物像を読み取り、この〈層〉に属する人を編者に擬する提案を行った。『十訓抄』成立時の事情を更に追求することや、近世に至って禁裏に収蔵されるような読まれ方への変化の様子については、なお調査と研究を持続する必要がある。

(8)　禁裏関係目録に最も多く名の見えた説話集である『古事談』について検討を行った。巻五神社仏寺の各話に註釈を施し、又、平安時代の貴族藤原実資の描かれ方を検討した。また抄本ながら最古本である『古事談抄』十話分に註釈を施した。更に該本の紙背文書の翻刻を試み、読み取る事のできたいくつかの固有名詞から、その書写時期を室町初期とす

ることが妥当ではないかとの見解を示した。更にその書写の場として、南朝に仕えた関白家を擬する可能性が見出せ、そのことの更なる追跡と、『古事談抄』という作品理解との関連が次なる課題として生まれた。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３件）
(1)内田澪子、「『古事談抄』書写時期について」、『國語國文』、査読済 2011 年８月号掲載予定

(2)内田澪子、「「六波羅二藺左衛門入道」考−『十訓抄』の編者像−」、『國語と國文学』、査読有、第 86 巻第４号、2009 年、26〜39p

(3)内田澪子、「高松宮家本『十一面観音縁起』と『長谷寺蜜奏記』」、『巡礼記研究』、査読有、5 巻、2008、73〜84p

〔図書〕（計４件）
(1)浅見和彦・伊東玉美・内田澪子・木下資一・高津希和子・蔦尾和宏・土屋有里子・松本麻子・山部和喜、笠間書院、『新注 古事談』、2010 年、361p

(2)浅見和彦・伊東玉美・内田澪子・蔦尾和宏・松本麻子、笠間書院、『古事談抄 全釈』、2010 年、520p

(3)吉岡眞之・小川剛生・酒井茂幸・小倉真紀子・内田澪子・海野圭介・他 15 名、国立歴史民俗博物館、『高松宮家伝来禁裏本目録』、2009 年、296p・176p

(4)田中貴子・佐藤道生・生井真理子・伊東玉美・田渕句美子・田中宗博・磯水絵・山口眞琴・蔦尾和宏・内田澪子・他 11 名、笠間書院、『『古事談』を読み解く』、2008 年、538p

６．研究組織
(1)研究代表者
内田　澪子（UCHIDA MIOKO）
お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学研究科・研究院研究員
研究者番号：50442497

(2)研究分担者

無し

(3)連携研究者

無し